

自己点検・評価報告書

2025年4月1日

日本語教育機関名：国際ことば学院日本語学校	
点検・評価項目	
1.理念・教育目標	評価
1.1 教育理念 世界中の多様な人間同士が学びあい、支えあう場を創造する。 留学生同士が支えあう学びの場、留学生と日本人が共に支えあう社会を創る学校を目指します。	
1.2 教育目標 I. 【授業活動の方針】 生徒が様々な人と触れ合いながら、学ぶ喜びを感じる場にあること II. 【学校内の人間関係づくり】 学校全体が信頼しあう場になっていること III. 【地域とのつながり】 生徒が幸福な社会づくりに貢献する学校であること	
まとめ 学校運営はコロナ禍での混乱期から安定までのプロセスを順調に経て発展期へと移行している。この段階では重大な問題こそないものの変化する時代に合わせ生じてくる様々な課題には対応が求められる。未来予測が困難な時代とあって、柔軟に対応する十分な経営的体力をつけておくことを経営的課題としたい。 また、学校の教育課程の充実化の作業と同時に、渡日前の本校への留学希望者への周知方法や選考方法には課題が残る。地域における日本語学校のありかたについては行政機関や関連組織との連携が欠かせないと考えている。	
2. 日本語教育機関の運営	
2.1 日本語教育機関の告示基準に適合していることを年 1回以上確認している。	A
2.2 運営の透明性が確保されている。	A
2.3 運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されている。	A
2.4 運営にあたり法令を遵守している。	A
*達成状況・課題・改善計画 校長が主宰する会議にはいくつかあるが、非常勤教員を含めた全校教員への本校の体制についての説明会を実施したほか、常勤職員を対象とした学校の間接計画についてのヒアリングをおこない、学校の運営にかかわる者同士が意見を交換し合う機会を複数回にわたって設けた。今後も必要に応じ開催していきたい。	
3.情報公開	
3.1 機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開している。	A
3.2 募集及び納付金に関する情報を公開している。	A

自己点検・評価報告書

2025年4月1日

日本語教育機関名 : 国際ことば学院日本語学校	
点検・評価項目	
3.3 入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている。	B
3.4 情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている	B
3.5 公開されている情報は常に最新のものに更新されている。	B
*達成状況・課題・改善計画 必要な情報は、HP、パンフレット、募集要項などで提示している。言語対応については、HPでは自動翻訳機能、募集要項などでは英語表記などの対応をしている。基本的に、日本語が堪能な仲介者を介することが多いため仲介者からの情報提供に頼る部分が多い。HPは、今年度中にリニューアルする予定で、その際、必要な情報がどこにあるのかわかりやすくする予定である。	
4.入学者の募集と選考	
4.1 適切な方法で入学者の募集を行っている。	A
4.2 適切な方法で入学者の選考が行われている。	B
*達成状況・課題・改善計画 海外の提携機関と定期的に連絡を取りあい、当校の募集要項を明確にした上で募集活動を行っている。選考方法については、最終学歴と成績、志望理由書、経費支弁能力等の書類審査に加え、現地の提携機関を通じて入学希望者の学習意欲や日本語能力をZOOM面接にて確認をしている。当校職員が現地で直接面会する機会が少ないため、海外の機関に委託して間接的に行っているのが現状であり、選考方法については2025年度の課題である。	
5.教育活動	
5.1 教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。	B
5.2 教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。	B
5.3 授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。	C
*達成状況・課題・改善計画 理念と教育目標を達成するためのカリキュラム編成や成績評価については、2025年度から実施し始めている。能力別のクラス編成はこれまでも行っているが、学習予定や評価システムの構築、開示などまだまだ不足していると言わざるを得ない。これに関しては現在検討中であり、2025年度から試験的に導入し、効果の検証のできるシステムづくりをする予定である。	
6.教職員育成	
6.1 教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っている。	B
6.2 教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っている。	C

自己点検・評価報告書

2025年4月1日

日本語教育機関名　：　国際ことば学院日本語学校	
点検・評価項目	
*達成状況・課題・改善計画 教員に関しては2024年度より輪読会などの勉強会や各種外部研修を案内している。また、2025年度からは全体講師会の回数を増やしたり研修等の記録作成など教育力の向上への取り組みを始めている。 振り返りや教育目標に必要な能力資質などは現段階での明示がされていない。2025年度中に提示できるよう案を検討している段階である。 また、職員は年に2度自己評価を実施し、その結果をふまえて上司がフィードバックを行っている。評価システムは法人本部にて都度見直しが行われており、次年度もよりよい評価システムを検討している。	
7. 学生支援	
7.1 日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている。	B
7.2 進路指導を適切に行っている。	A
7.3 安全な留学生活を送るための適切な取組をしている。	B
7.4 入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。	A
*達成状況・課題・改善計画 進路指導は適切に行っている。入国後、直ちにオリエンテーションを行い、日本で生活するために必要なことを教えている。安全な留学生活を送るために交通安全指導は行っている。入国・在留に関しては送り出し機関に依頼をしている部分が多いが、学校側での受け入れ態勢については整っている。	
8. 施設・設備	
8.1 語学学習に適した施設・設備である。	B
8.2 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対処を行っている。	B
*達成状況・課題・改善計画教 ICTを活用した授業ができるよう各教室に機器を設置している。授業時間外の自習スペースは時間的制約があり十分とは言えない。 施設については法令上必要な設備は整っている。常勤職員で発電機・緩昇機の使用方法を再確認し、非常勤職員には動画にて共有、非常時に教職員が慌てず避難誘導ができるよう努めた。バリアフリー対策については現状の校舎では難しい。	
9. 地域貢献・社会貢献	
9.1 地域貢献、社会貢献となる活動を行っている。	A

自己点検・評価報告書

2025年4月1日

日本語教育機関名 ： 国際ことば学院日本語学校	
点検・評価項目	
*達成状況・課題・改善計画 地域の防災訓練や運動会などの行事に積極的に参加をし、地域の方々との交流を深めている。また、大学生の実習受入れなども行っている。また定期的に植樹のイベントや児童養護施設のお祭りにも参加。2024年度の学校の運動会には大学生を招待し、同世代の日本人学生とも交流を図ることができた。幅広い世代の日本人と交流を図ることができている。今後は小学校や中学校とも何かできればと検討中である。	
10. 財務	
10.1 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。	A
*達成状況・課題・改善計画 学校法人である当校は、財務状況は中長期的に安定している。予算、収支計画について、学校法人本部において審議され承認を受けており、有効性及び妥当性は保たれている。決算については、適正な会計処理を行い、公認会計士による会計審査を受け、学校法人の理事会において監査報告をし、承認を受けている。	

評価方法

- ・ A：「達成している」あるいは「適合している」項目。
- ・ B：「一部達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。
- ・ C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。